

## 危険学プロジェクト バージョンII 研究趣旨と概要

危険学プロジェクト代表 畑村 洋太郎  
(東京大学名誉教授・工学院大学教授)

2004年度に私的プロジェクトとして「ドアプロジェクト」を実施した後も、さまざまな事故が起きつづけた。そこで、2007年4月から新たに期間5年の「危険学プロジェクト」を立ち上げ、通常行われている事故調査などのような狭義の原因究明に限ることなく、事故の防止を最終目標として、社会・組織・人間の考え方や行動様式の解明にまで踏み込んだ調査研究を行ってきた。さらに、これらの研究によって得られた知見をもとに、想定される危険を回避する具体的方法などプロジェクト活動の成果を社会の共有財産とするため、さまざまな媒体を使って広く世の中に情報発信し、知識の共有をはかってきた。

そこに東日本大震災が発生し、福島第一原子力発電所で炉心溶融を伴うレベル7の重大事故が起こった。その約2週間後の2011年3月27日に、計画停電や交通機関の混乱等があつてほとんどの催し物が中止されるなか、300人近い人が集まって「危険学プロジェクト 2010年度末報告会」を開催した。東日本大震災とそれに伴って起こった日本原発史上初めての重大事故に直面し、我が国の行く末が心配で、何とか方向性を掴みたい人たちが一杯であった。そこで出された要望の中で一番多かったのが、危険学プロジェクトの「活動継続」であった。

この時の要望を重く受け止め、2012年4月から、テーマの内容やプロジェクトメンバーを大幅に改め、期間5年の「危険学プロジェクト バージョンII」を立ち上げ、再出発することにした。バージョンIIでは、自然と技術、人と組織の問題に正面から向き合い、研究活動を通じた社会との関わりをより深めていきたいと考えている。

### (1) 本プロジェクトで扱うテーマ

- ① 自然と技術の関係に潜む危険の現況把握：三現(現地・現物・現人)による調査や実証実験による現象および原因解明
- ② 危険に対する人的要因の把握：組織に内在する問題点及び思考・行動過程の把握
- ③ 危険に関する知見の情報発信と社会的共有
- ④ 危険回避の試み

### (2) 研究グループの構成

グループ(0) 危険と社会	グループ(8) 子どものための危険学	グループ(12) 原子力
グループ(4) 情報とシステム	グループ(10) 災害	グループ(14) 高齢者
グループ(7) 遊具	グループ(11) ベンチマーク	グループ(15) 社会インフラ

### (3) プロジェクト概要

- ・ 期間：2012年4月から5年間
- ・ 事務局：畑村創造工学研究所 神田分室内
- ・ 参加者の参加形態：ボランティア、企業からの派遣、手弁当
- ・ 協力：森ビル(株)、東京エレクトロン(株)、日産自動車(株)、JR東日本(株)、JR西日本(株)、新川電機(株)、新川センサテクノロジー(株)、住友ベークライト(株)、日本キスラー(株)、東芝エレベータ(株)、三和ホールディングス(株)、(株)森精機、旭硝子(株)、石川島運搬機械(株)、パラマウントベッド(株)、(株)乃村工藝社、長野県木祖村、産業技術総合研究所、NHK、講談社、岩波書店、各分野の専門家(法律、材料、情報、心理、医療、機械 他)、(株)畑村創造工学研究所。

### (4) 研究日程



(5) 次回公開の全体集会：2014年3月末(日曜)午後1～5時半@六本木ヒルズ森タワー49階アカデミーヒルズ49

◎関連ホームページ：<http://www.sozogaku.com/kikengaku/index.php> <http://www.kikengaku.com/public/>  
危険学プロジェクトホームページ 危険学プロジェクト「子どものための危険学」

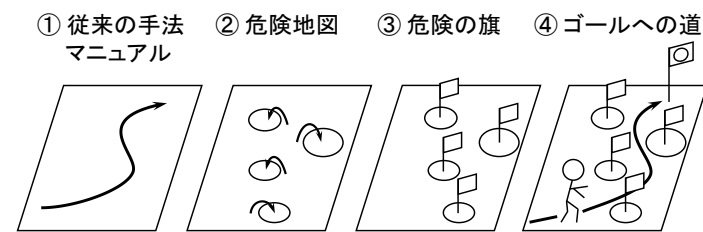


図1 危険学の考え方～危険地図を作る～

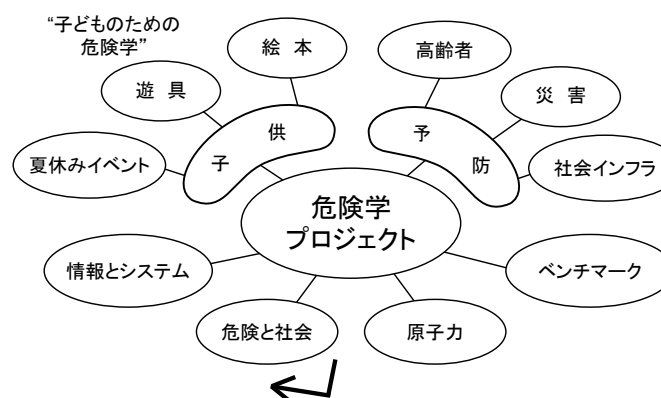


図3 危険学プロジェクト バージョンII テーマ



図6 新型遊具の贈呈式(上)、遊具を楽しむ親子(下)  
(2011年10月、長野県木祖村 こだまの森)

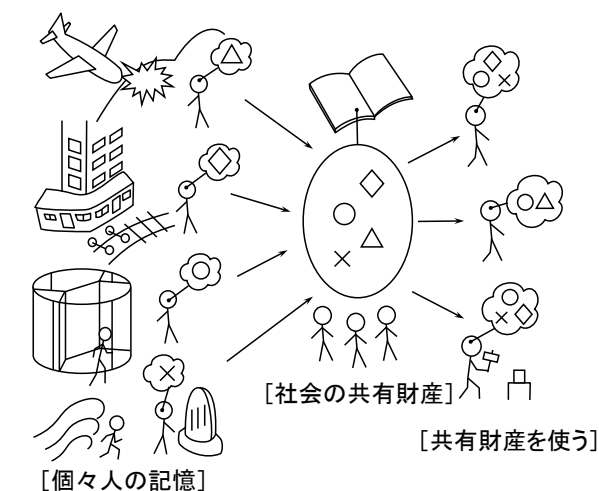
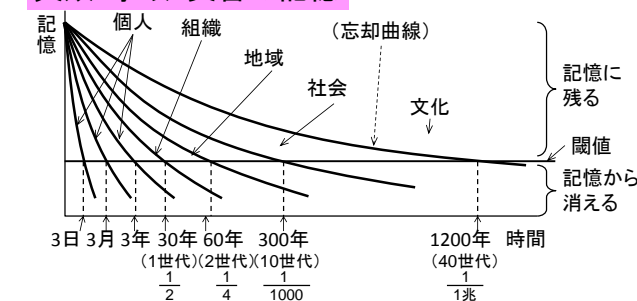


図2 危険についての知識を社会で共有する

### 失敗・事故・災害の記憶



災害の記憶の減衰・消滅～3日,3月,3年,30年,60年,300年,1200年～  
大災害は頻度が低く、発生の間隔が長いので、災害の記憶が社会から消える。

図4 人間の記憶と時間の関係

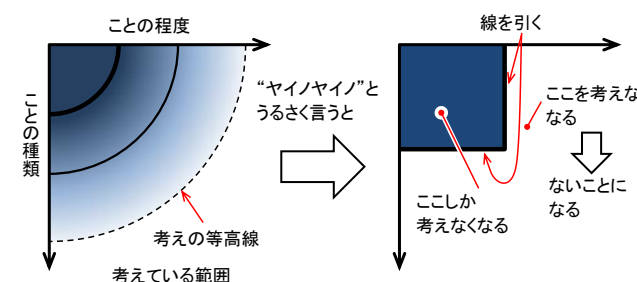


図5 人間はきちんとやろうとすると範囲を限定する



図7 夏休みイベント(楽器バンドーラの制作・演奏実習会)  
(2012年8月、長野県木祖村 こだまの森)